

# 平成 26 年人口動態では**出生数と出生率**に注目 (6月5日発表)

27.6.6 (4.12) 矢島義恭

- 平成 25 年の出生数の減少は大きく、近年では最大級。自然減の拡大傾向は相変わらずに続く。
- 出生数が **100 万人** を割るのかにも注目。**1880 年代**以来のことで(下表)、平成 27 年には確実。
- 出生数の減少が大きいなかで合計特殊出生率は近年みられる**反転回復の微増**が続くのか、それとも出生率の微増傾向に歯止めがかかり **1.40 前後の低迷が続く**のかが注目の的。いずれにしる 1.40 前後の出生率では、現在の国による少子化・人口減対策に実効性があるとは言い難く、出生率 **2.07** を回復し将来的に人口減少をくい止め静止人口を実現する見通しは見えてこない。

26.12.27 日閣議決定総合戦略の「50 年後の人口 1 億人確保」のためには、2030 年までに合計特殊出生率を **2.07** に回復しなければならないのだが。(「危機的な・・・増補五訂版」の 3 頁参照)

## 厚労省報道発表資料

厚労省の人口統計関係

- 2014 年 6 月 4 日 「平成 25 年 人口動態月報年計(概数)の概況」  
出生数、死亡数、自然増減数、合計特殊出生率の概数
- 2014 年 9 月 11 日 「平成 25 年 人口動態月報年計(確定数)の概況」  
出生数、死亡数、自然増減数、合計特殊出生率の概数の確定値
- 2015 年 1 月 1 日 「平成 26 年(2014 年) 人口動態の年間推計」  
出生数、死亡数、自然増減数の推計値
- 2015 年 6 月 5 日** 「平成 26 年 人口動態月報年計(概数)の概況」  
出生数、死亡数、自然増減数、合計特殊出生率の概数

